

日本とポルトガルの修好百六十周年にあたり、日本政府及び日本国民を代表して、コスタ首相閣下及びポルトガル国民の皆様と共に、この記念すべき慶節を迎える喜びを分かち合いたいと思います。

日本とポルトガルは百六十年前の八月三日に修好通商条約を締結しましたが、両国の出会いは千五百四十三年のポルトガル人の種子島漂着まで遡り、日本にとってポルトガルは最初に出会った欧州の国です。両国はこうした長い歴史に裏付けられた伝統的友好関係及び共に海洋国家であることを背景に、自由、民主主義、人権、法の支配といった普遍的価値を共有する重要なパートナーとしての関係を確立しました。

私自身、二千十四年に日本の現役の総理大臣として初めてポルトガルを訪問し、ポルトガル国民の皆様からの温かいおもてなしに感銘を受けました。今や両国間で、政府のみならず、議会、民間企業、民間団体、大学、姉妹都市等あらゆるレベルで重層的に活発な交流が行われてきています。この百六十周年を機に、これまで以上に両国間の交流を深めるため、引き続きコスタ首相閣下と協力していききたいと考えています。

ポルトガルはアフリカ及び南米へのゲートウェイとしての役割を担っており、多くの日本企業が貴国への投資に関心を向けております。昨年開催された貴国最大級のイベントであるウェブサミットに、JETROミッションも参加し、二十五社の日本企業が出展したことは、ポルトガルへの関心の高さの証左と言えます。昨年二月には日EU・EPAが発効し、今や進出企業数も約百社となりました。両国経済関係が着実に強化されていることを大変嬉しく思います。

最後に改めて、日本とポルトガルの修好百六十周年に心からお祝い申し上げると共に、コスタ首相閣下とポルトガル国民の皆様の益々の御健勝と御多幸を心からお祈りします。

令和二年八月

日本国内閣総理大臣
安倍 晋三

ポルトガル共和国首相

アントニオ・コスタ

閣下